

Hello! FUJISEI

No.241

長くなった老後生活の資金準備は大丈夫でしょうか？

公的年金等が総所得の100%という高齢者世帯が6割を占め、頼みとする公的年金ですが、それだけでは十分ではなく、しかも病気などの思わぬ出費に対する準備も必要です。社会経済情勢の変化により、老後生活資金の準備について、真剣に考える方も多くなっています。

総務省のまとめた「家計調査報告（家計収支編）—平成26年平均速報結果の概況—」から老後生活の収支状況をみてみましょう。

●可処分所得は実質減少

総世帯のうち高齢無職世帯（世帯主が60歳以上の無職世帯）の実収入は170,638円で、前年に比べ実質8.6%の減少でした。内訳をみると、公的年金などの社会保障給付は、実収入の86%を占める146,668円で、前年に比べ実質10.4%減少。また、直接税、社会保険料などの非消費支出は22,878円で、前年に比べ名目4.1%の減少となりました。その結果、可処分所得は147,761円で、実質8.9%の減少でした。

●消費支出は実質減少

消費支出は207,370円で、

長い老後生活の資金準備は？

可処分所得を上回る消費支出

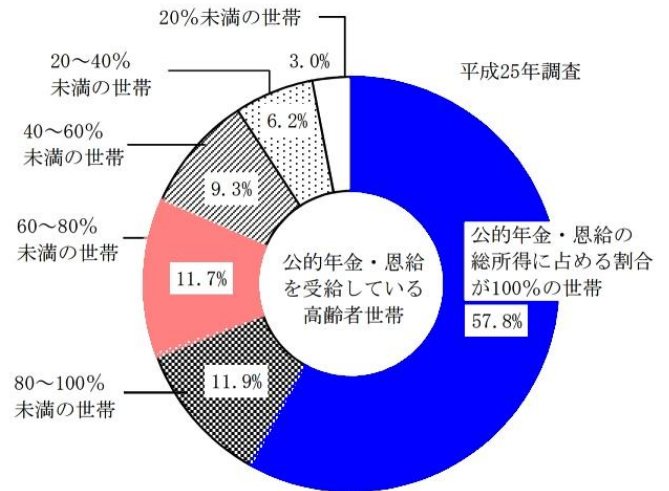
高齢無職世帯

前年に比べ実質4.7%の減少でした。内訳は、交際費などの「その他の支出」、住居、食料などが実質減少し、交通・通信が実質増加となりました。

消費支出の費目別構成比をみると、交通・通信、食料などの割合が上昇し、交際費などの「その他の消費支出」などの割合が低下しています。

なお、エンゲル係数は25.6%と、前年に比べ0.6ポイント上昇しました。

公的年金・恩給を受給している高齢者世帯における公的年金・恩給の総所得に占める割合別世帯数の構成割合

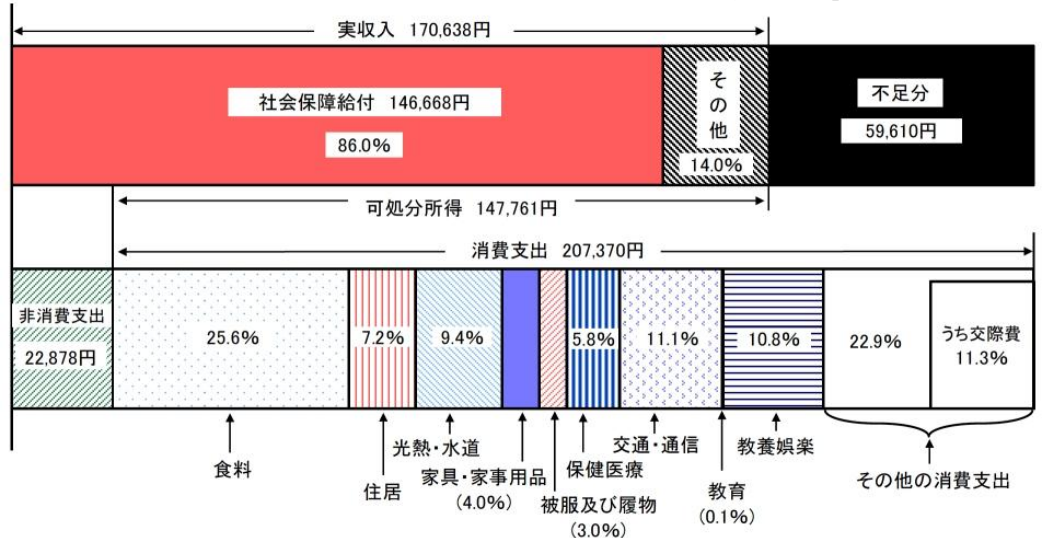


厚生労働省「国民生活基礎調査」（平成25年）

消費支出に対する可処分所得の不足分は59,610円で、前年に比べ5,914円増加しました。不足分は金融資産の取り崩しなどで賄われています。

高齢無職世帯の家計収支（総世帯）

総務省「家計調査報告（家計収支編）—平成26年平均速報結果の概況—」より



AIG富士生命保険株式会社

〒105-8633 東京都港区虎ノ門4-3-20
神谷町MTビル